

23 宝永の大火

ほうえいのたいか

知る

被害状況は？

宝永の大火とは、宝永五（一七〇八）年三月八日の未明に発生した大火です。油小路通姉小路下る宗林町の銭屋市兵衛宅から出火。西南の風にあおられ、禁裏御所をはじめ、北は今出川通、南は錦小路通、西は油小路通、東は鴨川畔にまで火が達しました。

この火災による被災家屋の正確な戸数はわかりませんが、禁裏や公家屋敷九十五軒、町数四百十七町、家数一万三百五十一軒、寺社百十九か所、大名屋敷二十一軒が焼失したという記録もあります。

大火の影響は？

宝永の大火は広大な範囲を焼失したため、京都の町並みに大きな変化を与えました。その一つが市街地の拡大です。これは、焼失した禁裏の再建に伴い、公家町を拡張するために、烏丸東側と丸太町北側の町家を、鴨川東の二条川東（左京区）と内野（平安京大内裏旧地）などに移転させたことです。

宝永大火以前は、いまの京都御苑（京都御所周囲）の範囲には公家の邸宅が集まっていたいましたが、その間に民家がまじ

っていたのです。これが大火後には収用され、烏丸通・寺町通・丸太町通・今出川通の各通りで囲まれた範囲すべてが公家町になったというわけです。

二条川東は、もと聖護院村と岡崎村の畑地だったところで、大火以前には、頂妙寺と法林寺が建っているだけでしたが、大火後には多くの町や寺院が移転してきました。このあたりの通り名には、新東洞院通など、「新」を冠するものがたくさんみられます。これらは移転以前の旧地にちなんで名付けられたものです。

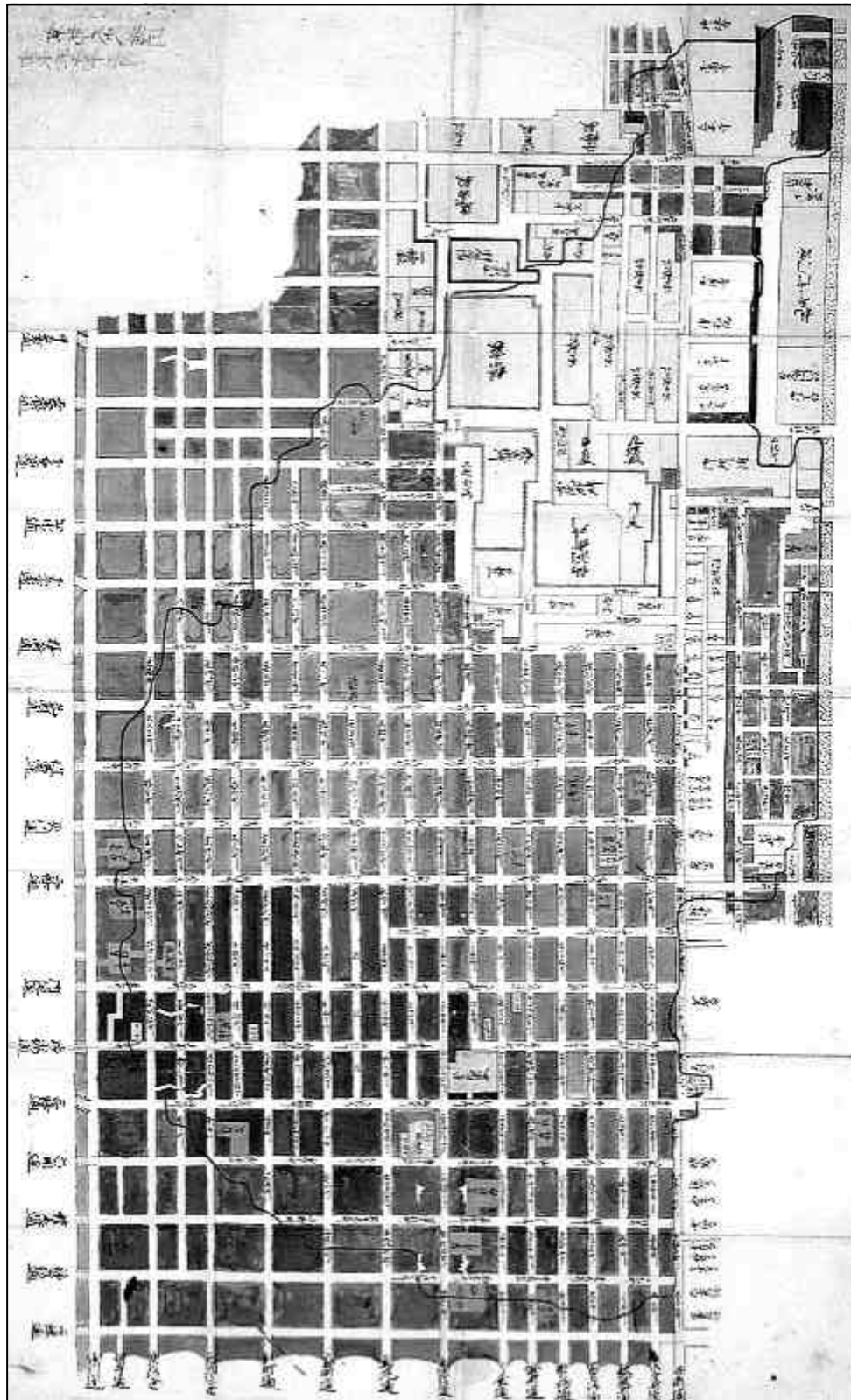
歩く／見る

「新」のつく通り名

二条通を東へ進み、鴨川を越えたあたりが江戸時代に二条川東と呼ばれた地域です。

この地域には、新丸太町通、新数屋町通、新車屋町通、新富小路通、新東洞院通、新柳馬場通、新間之町通、新堺町通、新高倉通など、新の字を頭につけた通り名がたくさんあります。

また、鴨川の西側でも、河原町通の一筋西に新烏丸通が南北に通っています。これも烏丸通沿いの民家が移転させられたなごりです。



宝永の大火の消失範囲を示す古地図（京都市歴史資料館蔵）。右上は御所、下端は四条通、左端は堀川通。細い線で囲まれた範囲が焼失。